

令和5年度 第1回磐田市障害者施策推進協議会 会議録

【日 時】 令和5年8月24日(木)午後1時30分～午後3時

【会 場】 磐田市総合健康福祉会館(iプラザ)2階 ふれあい交流室

【出欠席】

協議会委員(名簿順)

出席 : 鈴木眞喜子、中村千晶、高橋隆代、吉村強、沖山均、乗松宏幸、井上佳子、松本一男、
福田弘子、井川淳史、堀川朋子、木村良輔、小沼裕樹

欠席 : 鈴木敏弘、赤堀咲歩

事務局 : 富田福祉課長、丸尾、角、石代
佐原こども未来課長、青木、南

1. 開会

1-2 課長あいさつ

1-3 委嘱状交付、自己紹介

1-4 会長及び副会長の選任

2. 協議事項

2-1 第6期磐田市障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画の進捗状況について

2-2 第4期磐田市障害者計画の策定に係るアンケート調査結果について

2-3 第4期磐田市障害者計画 外2計画の策定について

3. 事務連絡

4. 閉会

会 長: それでは協議事項「(1)第6期磐田市障害福祉計画・第2期障害児福祉計画の進捗状況について」事務局から説明をお願いします。

事 務 局: 事務局説明 (第6期磐田市障害福祉計画 1 障害福祉サービス実績等について)

会 長: 質問、御意見が無いようですので次に移ります。

事 務 局: 事務局説明 (第6期磐田市障害福祉計画 2 児童福祉サービス実績等について)

会 長: 質問、御意見が無いようですので次に移ります。

事 務 局: 事務局説明 (第6期磐田市障害福祉計画 3 地域生活支援事業実績等について)

会 長: 質問、御意見がありましたらお願いします。

委 員: 地域活動支援センターが昨年度以内に開設され、利用者の数も増加しているが、利用者数は今後も伸びていく状況か、また増加していく中で利用者の受け入れは可能か?

事 務 局: 一日中ずっと利用している状況だけではなく、短時間利用する方もいる。受け入れられる余裕もあると委託先からは聞いている。

委 員: 意見として発言するため事務局からの回答は不要ですが、先ほどコロナが落ち着いて利用者数が増加傾向にあるという話があった。全体的に利用者数が増加傾向にある中で、行動援護や移動支援の利用者数はあまり変わらない。利用者の方たちが、コロナが一段落して、外出の機会も増加している中で、ヘルパー不足により利用が制限されていることも考えられるので、課題であると感じる。

委 員: 地域活動支援センターだが、昨年 10 月に開設した後、現場も見に行ったがいい成果が出ていると思っている。そのような中で計画上の令和5年度利用者数が少ないように思うが。

事 務 局: 3年前に計画値として算出しているが、当時は市内に地域活動支援センター設置の動きがなかったため計画値も低く設定されている。実績とすれば大幅に増加する結果となる。

会 長: ほかに質問、御意見が無いようですので次に移ります。続いて、(2)「第4期磐田市障害者計画の策定に係るアンケート調査結果について」事務局から説明をお願いします。

事 務 局: 事務局説明 (第4期磐田市障害者計画の策定に係るアンケート調査結果について)

会 長: 質問、御意見がありましたらお願いします。まず私から、質問させてください。アンケートの中で、「障害に対する周りや地域の人々の理解が分からない」が約3割という結果になっているが、この「分からない」は、例えば、関わりがないとかそういうことになるのか。

事 務 局: 設問であるので、ずばりという回答はできないが、記述の内容から推察すると関わりがないという方が多いのではないかと考えている。

会 長: 自由記述があるという話だが、設問の中の「その他」は個別性が高いため、よく省略されるものであると思うが、回答結果の中を見るに、「その他」の回答割合が二桁以上のところもある。もし「その他」の内容や内訳が分かれば教えていただきたい。

事 務 局: 設問の仕方で、「その他」の詳細について問うてはいないことから内訳は分からないが、自由記述の中から読み取れたらと考えている。

委 員: 個々のアンケート結果をみると、障害種別間で特に精神障害とほか2障害との回答に大きな差があるように感じる。

事 務 局: 精神の方のアンケート回答数がほか2障害よりも極端に少なくそれが分母となり、パーセ

ンテージが上がってしまう結果となってしまった。ただ、回答者数は少なくとも回答者がいるということなのでアンケート分析していく中で検討していきたいと思っている。

委員：アンケートの調査対象者、手帳の有無、18歳以上・未満と分けているが、質問内容を見る限り、18歳未満については基本的に回答者が介助者または親になると思うが、その方たちのみにアンケートを取っているのか。

事務局：基本的にはご家族の方が対応、回答している。

委員：承知した。ここからは意見として聞いてもらいたい。18歳以上の方は本人だけでなく、家族にも聴き取りをしているのか。障害種別毎に合理的に配慮された質問方法をとっているか。18歳未満であれば、サービスを受けているのは子どもであるが親が回答する。子どもの想いは誰が聞くのか。子どもたちの想いも聞ける仕組みづくりを磐田市として構築してもらえたらと思う。意見です。

事務局：質問方法については、ご指摘いただいたため配慮した設問や質問方法を考えていきたい。

委員：アンケートの回収率が、全体的に少ないと感じるが、回収率や回答率をあげる改善策や工夫は検討するか？

事務局：紙面での回答だけではなく、web上で回答できる仕組みも作り、工夫は講じたが、さらに向上できる取組について検討していきたいと思う。

委員：意見です。「介助する上で心身の負担が大きい」との回答が、年齢区分を問わず割合が高い。自分の仕事柄、このアンケート結果から、家族に寄り添う支援ができていているのか反省するものとなった。

会長：ほかに質問、御意見が無いようですので次に移ります。続いて、(3)「第4期磐田市障害者計画 外2計画の策定について」事務局から説明をお願いします。

事務局：事務局説明（第4期磐田市障害者計画 外2計画の策定について）

会長：質問、御意見がありましたらお願いします。

委員：障害福祉サービスの質の向上に係る課題解決のために、市職員が研修等に参加して質の向上を図るとあるが、公務員は異動があり研修を受けたのに異動となってもったいないと思った。研修を受けた方がどれだけ残って貢献できるかだと感じるがどうか。

事務局：職員の研修については、比較的異動してきて間もない職員に研修を受けさせている。すこしでも長く携わってられる職員に研修を受けさせている。また専門職として精神保健福祉士も採用しており、そちらの職員も活用したいと考えている。

会長：ほかに質問、御意見が無いようですので、本日の議事については以上とさせていただきます。もし全体を通して皆様から何かございましたらお願いします。本日予定されている協議事項・報告事項がすべて終了しましたので、進行を事務局にお返します。

事務局：以上を持ちまして、令和5年度第1回磐田市障害者施策推進協議会を終了させていただきます。